

第76回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年9月4日(金) 14時～17時

兼題「かかし」

- 川井素山 ○雨しづく乗せて傾げる木槿かな
へのへのもへじ消ゆし案山子の白き顔
冷めし茶の喉にやさしき残暑かな
一陣の風の秋めく雨戸繰る
- 保井寶正 ○墨色に白の美求め秋に入る
畦暮れて顔かしげおる案山子かな
ひぐらしや不戦うつたえ啼きじやくる
コスモスを一茎折りて母の部屋
- 青木英林 ○豊作を満足顔で観る案山子
引き潮が夏の終りを告げる浜
山高し夕空飛翔赤とんぼ
彼岸花一直線に畦長し
- 後藤克彦 ○よたよたと塀越え試す秋の蝶
田を護る案山子ひとつの過疎の村
朝顔の残り一輪屋根の上
鰯雲ところどころに鮫の形
- 佐久間喬 ○暮れなずむやおら高まる虫時雨
秋祭り綿菓子揺れて太鼓の音
松越しに雲流れゆく夕月夜
コンテスト並ぶ案山子は人気者
- 丸山酔宵子 ○ロフト打つ雨音激し夏の暮
湯に煙る岩で一息赤とんぼ
曇天の空に陽が射し秋暑かな
風に揺れ案山子を突つくからすかな
- 菊地崇之 ○干芋茎とろける味の大年増
十六夜の月を愛でるや老夫婦
衣被一皮むけて豊潤な
古里案山子ぼろの端切れと竹の足

- 牧野里山 ○山道の朝靄の中ユリ一輪
黄金色波立つ中に案山子みえ
鏡池秋の気配が濃くなりし
ふと見上げいつの間にやら秋気配
- 吉田啓悟 ○不作田に朽ちて向き合ふ案山子かな
襖絵や蝸の声こぼれくる
我去りし職場いつまで夜業の灯
蝸に鳴き替りゆく神の森
- 佐久間たか子 ○捨て案山子なほ眼力を保ちたる
手に余る房のあふるる葡萄狩り
鳴き疲れ寝つく児のごと法師蟬
防災の頭巾のぞけば皆笑顔
- 佐伯武雄 ○里山や人恋しくて熟し柿
締め切りの声に追われる夜食かな
焼き秋刀魚はらわた残し睨まれる
センサー付きの案山子が守る農家かな
- 山本草風 ○セピア色祖母と一緒の白紵
気を正し悟りの行脚襖川
仏前や朝の巖気と蟬時雨
案山子立ち家族模様の田圃かな
- 大山龍海 ○黄金田に弊衣風舞い古かかし
雲海に富士見え隠れ大和かな
滝音に心振るいて木々映える
古洋館影に憂いや夏湖面
- 金森純女 ○かかし無き田に目ん玉のひるがえり
糸瓜忌や友のある身のありがたさ
秋の蝶ゆらりゆらりと追りくる
すだち切る妻のかんばせ潔く
- 中山志津久 ○秋さんま烟たなびく盃と
夕映えに稲刈り続くかかしかな
桐一葉裕の着物香をたく
金色にすすき揺れる月の光

次回 「萩句会」

日時 2015年10月12日（月）14時～17時

兼題『千柿』か『花野』どちらか

当季雑詠三句 計四句